



第19回全日本身体障害者野球選手権大会 優勝チーム「岡山桃太郎」エース投手

吉備国際大学4年生 早嶋 健太さん (小原)

生まれつき左手に障害(左上肢手指欠損)がある。小学5年生から野球を始め、中学、高校、大学と健常者の中でレギュラーの座をつかんできた。平成28年から障害者野球を始め、創設33年の歴史を持つ岡山県の障害者野球チーム「岡山桃太郎」に所属。昨年の11月に行われた第19回全日本身体障害者野球選手権大会に主力として出場し、同チームの初優勝に貢献。自身も日本身体障害者野球連盟の2017年度年間リーグMVPに選ばれた。



▲先発投手として登板する早嶋さん



野球を始めたきっかけは？

友達に誘われたことがきっかけです。そのときにボールを打つことや投げることなど、野球にはたくさん楽しいことがあると思いました。また、良いプレーをしたらみんなが褒め合い、失敗すると励まし合うなど、一人では味わうことができないチームプレーの楽しさも感じました。

1年前に障害者野球を始めた心境の変化は？

わたしはずっと健常者の中で競ってきました。大学では120人程の部員の中で、試合に帯同できる25人にも選ばれていたため、野球に関しては誰にも負けない自信がありました。そんな中、障害者野球にも日本代表があることを知り、日本代表になりたいという思いが強くなり、岡山県の障害者野球チームに入って障害者野球を始めました。

全国大会で優勝した感想は？

障害者野球は、上肢や下肢など障害のあるところが違う人が、それぞれ工夫して一生懸命プレーしています。また、大会に出ない人も、出場選手をいろいろな形で支援してくれました。みんなで力を合わせた結果、優勝することができて、とてもうれしかったです。

今後の目標は？

全日本身体障害者野球選手権大会の連覇を目指して頑張りたいです。連覇を続けることで、障害者野球といえば岡山といってもらえるようになればと思います。

また、個人としては、今年日本で開催される身体障害者野球の世界大会に日本代表として選ばれることが目標です。



津山《風と光と心の劇場》によるミュージカル公演「ピーターパンのぼうけん」取材しました。舞台上で駆け回るように演技しながら、とても長い台詞を話す子どもたちの姿に感銘を受けました。来年はどんな公演になるか楽しみです。今月号の12ページに記事を掲載しています。皆さんぜひご覧ください。(M)

表紙担当の月は、精神的重圧を感じます。そんな中、取材先で「広報の表紙はいい写真だね」など温かい声を掛けていただき、とても励みになります。取材時に写真をたくさん撮りますが使用できなかった人、ごめんなさい。今後も良い写真が撮れるよう頑張りますので、その時はよろしくお願いします。(M)

子育て支援の特集記事を制作していると、子どもの幸せや将来についてよく考えるようになりました。自分自身、子育てを通じて、子どもの笑顔や頑張る姿に元気をもらっていると感じます。子どもたちがさまざまな困難に直面した時は、子どもたちの可能性を信じて、しっかり支えていこうと思います。(M)